

小田原における連歌の文化

～外交官としての連歌師～

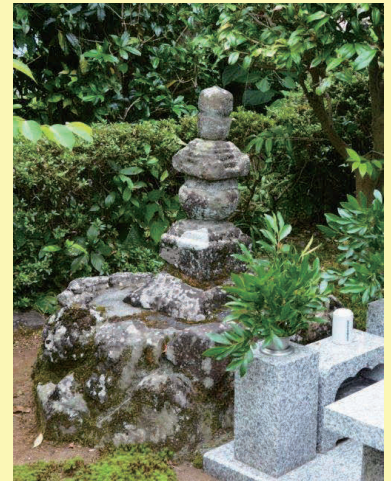
戦国時代の歴史では城と武将に注目が集まります。小田原の歴史でも、やはり小田原城と北条五代への関心が高いと言えます。一方で、北条時代から小田原には豊かな文化が花開いていたことは、あまり知られていません。今回は、室町時代から江戸時代にかけて、文芸として盛んであった「連歌の文化」を取り上げます。戦国時代には小田原へも連歌師たちが頻りに訪れていました。連歌師たちは、小田原で何をしていたのでしょうか。本講座では、小田原史を文化の観点から探っていきます。講座の概要は、裏面をご覧ください。



宗祇騎馬像
(早雲寺蔵)



宗祇句碑
(早雲寺境内)

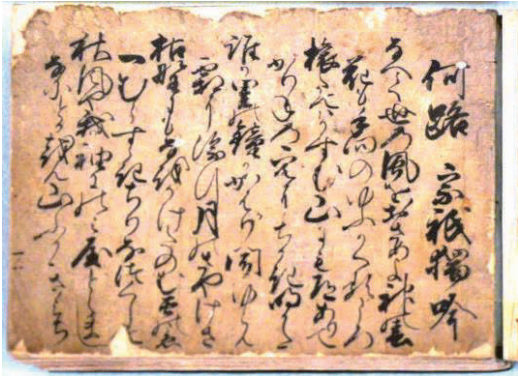


宗祇墓
(定輪寺境内)

- ◆ 講師：深野 彰氏 (エッセイスト)
- ◆ 日時：1月27日(土) 13:30～15:30 (受付 13:00より)
- ◆ 会場：小田原市生涯学習センターけやき 第2会議室
- ◆ 定員：50名(申込順)
- ◆ 費用：1,000円
- ◆ 申込み：

・申込先・問合先 NPO法人小田原市生涯学習推進員の会
・申込方法 電話受付：0465-33-1890
直接申込み：生涯学習相談窓口(けやき2階)
ホームページから <http://www.campusodawara.jp/kouza/>

連歌の文化 ～外交官としての連歌師～



宗祇・三島千句
(三島神社蔵)

文亀二年(1502年)7月、連歌師の第一人者であった「宗祇」は、旅の途中、箱根湯本で亡くなりました。弟子の「宗長」は、弟子たちと棺を担いで箱根を越え、裾野の定輪寺じょうりんじに師・宗祇を葬りました。その後、宗長も連歌師のトップになります。宗長やその弟子の宗牧も小田原に訪れています。連歌師たちは、京と地方を頻繁に往復しています。実は、連歌師は連歌会を主催して連歌を詠むだけではなく、京の朝廷・公家と地方大名を結ぶ外交官の役割を果たしていたと考えられます。そのような連歌師たちの、室町・戦国時代における役割を探っていきます。

講師紹介 深野 彰氏



1974年に早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了(生産工学専修)。生産システム設計、中国・蘇州駐在等の会社勤務後、現在エッセイスト。中国の文化史、小田原の文化史などをテーマに執筆。著書「蘇州通信」(2010年、中国・蘇州文化に関するエッセイ)、「ういろうにみる小田原」(2016年、「ういろう」の歴史を縦系にして、小田原史の文化人を横系にして小田原の文化史を織り込んだ)。小田原市社会教育委員、小田原市文化事業推進委員会監事。1949年生まれ。

会場アクセス



小田原市生涯学習センター けやき

〒250-8555 小田原市荻窪 300 番地
(小田原市役所となり)

電話 0465-35-5300

- 徒歩 JR小田原駅西口から約15分
- バス ①②とも、市役所前下車 徒歩約3分
- ①JR小田原駅東口2番のりば(所要時間約8分)
- ②JR小田原駅西口2番のりば 久野車庫・兎河原循環方面(所要時間約4分)

※駐車台数に限りがございますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。